

令和 2 年度福岡県アレルギー疾患医療拠点病院
事業計画書

独立行政法人国立病院機構福岡病院

令和 2 年 7 月 21 日

1. 事務処理体制

福岡病院は、全国 141 の病院ネットワークである独立行政法人国立病院機構の一員である。

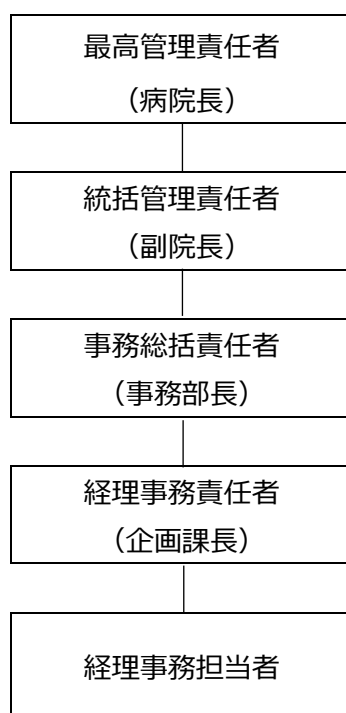
当院は、政策医療として、免疫・アレルギーの基幹施設、成育医療、重症心身障害の専門医療施設として機能附与されており、地域医療機関との病診連携を図り地域医療のニーズに対応するとともに、近年増加傾向にある呼吸器疾患全般の診療と臨床研究が盛んである。

成育医療に関しては、特に気管支喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患を持つ小学生に対するサマーキャンプ、水泳教室、食物アレルギー児のための食物アレルギー教室などの患者教育に力を入れている。このような診療報酬外の患者教育業務を当院の事業の一環として適正に事務処理を行っている。

平成 31 年 4 月 1 日に福岡県よりアレルギー疾患医療拠点病院として指定されたと同時に、院内にアレルギーセンターを設置し、院長がセンター長、統括診療部長とアレルギー科科長が副センター長となって、病院全体として福岡県のアレルギー疾患対策に取り組んでいる。

運営の基本としては、中期計画や年度計画を作成し、企業会計原則を適用した会計で毎年度、決算書類として貸借対照表を作成し、主務大臣の承認を受けている。臨床研究などに関わる国庫補助金は、最高管理責任者（病院長）、統括管理責任者（副院長）、事務総括責任者（事務部長）、経理事務責任者（企画課長）等を配置して、事務処理等のルールを明確にし、適正に事務処理を行っている。令和 2 年度においても、科研費及び治験費、受託研究費など多数受託して、研究を実施している。

（平成 30 年度臨床研究業務収益 70,868 千円、令和元年度臨床研究業務収益 70,038 千円）



2. 医療提供体制について

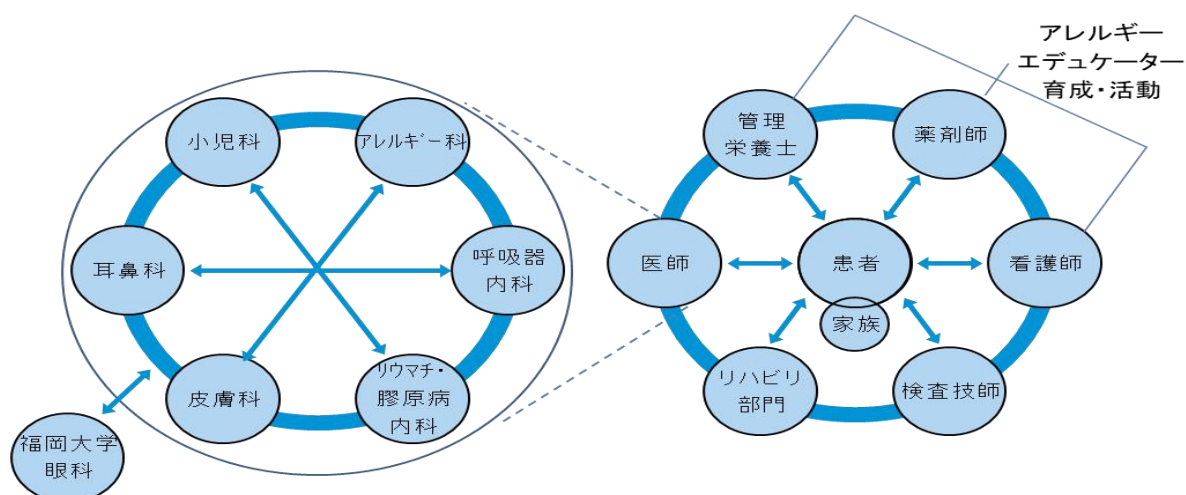
当院の医師部門には、アレルギー科、小児科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、心療内科、リウマチ・膠原病内科を診療科として擁しており、すべての診療科に専門医が常勤でいる。こどもからおとなまで、また疾患の範囲や領域としても、眼科を除くすべてのアレルギー疾患に対応できる体制が整備されており、眼科領域も福岡大学病院眼科との医療連携体制が構築できている。

またアレルギー専門医教育施設であり、下記のようにアレルギー指導医 9 人、専門医 6 人を擁している。年間の原著論文 42、総説や著書 25、国際学会発表 12、国内学会発表 125、研究会発表 33、学術講演 50 を行った。また、呼吸器アレルギー検討会、小児科南地区研究会、西日本小児アレルギー研究会など地域で催し地域の病院、開業医等との連携を重視している。その結果、紹介患者は年間 3000 人以上であり、喘息患者では運動負荷試験や気道過敏性試験、食物アレルギー患者では食物負荷試験、アトピー性皮膚炎患者では外用教育入院などを行い、その後紹介医で治療を続けるという連携診療を行っている。気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患は慢性疾患であり、毎日の家庭での吸入や内服、軟膏塗布を続ける必要がある。このようにアドヒアランスを保ち自己管理することを実際の生活で行えるよう、医師、看護師、薬剤師、栄養士などが連携し、小児に対してはサマーキャンプ、水泳教室、食物アレルギー児のための食物アレルギー教室を行い、成人ではアレルギー教室、市民公開講座を定期的で開催している。日本小児臨床アレルギー学会で認定を受けた小児アレルギーエドゥケーター（PAE）が患者教育に活躍し、学会発表や論文発表を行い発信している。

	内科	小児科	耳鼻咽喉科	皮膚科	合計
指導医	4	5	0	0	9
専門医	1	3	1	1	6
合計	5	8	1	1	15

当院のホームページ（<https://fukuoka.hosp.go.jp/>）は、「花粉情報」を含め、新規治療薬やガイドライン改正などに対応した変更も随時行っている。トップページには診療科別の案内以外に、疾患別の項目をまとめて表示することにより、医療に関する知識が無くても必要な情報を掲載したページに容易にアクセスできるようにしている。患者さんのご意見も参考に改善しており、スマートフォンでも見やすいように作成している。

医師以外の部門においても、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士など、多職種のコメディカルスタッフから成る医療チームが、アレルギー疾患に対して確立されている。



3. 行政との連携について

福岡病院は、福岡県が設置する福岡県アレルギー疾患医療連絡協議会（以下、協議会という）に対して、院長が委員として参画し、アレルギー疾患対策の立案を行うとともに、アレルギー疾患を担う医療機関との情報共有と人材確保対策の協議、福岡県からの委託事業の進捗報告を行っている。福岡県からの委託事業の活動は、協議会で検討されたアレルギー疾患対策について、福岡県の担当部局である福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課疾病対策係（以下「福岡県」という）と連携して取り組んでいる。令和元年度の委託事業として、アレルギー相談（アレルギー科医師＋小児アレルギーエドクター）を保健福祉センターにおいて3回開催。令和2年度は、アレルギー講演会とアレルギー相談を組み合わせた開催に向けて、現在、県内市区町村に希望調査をしているところである。更に、保健指導マニュアルの作成にむけた調査及び実施指導、医療機関調査も予定している。また、当院が主催する医療従事者等を対象とした「福岡県アレルギー講習会」は、福岡県からも県内市区町村の行政職員・各種団体等に対し広報するなど、連携して取り組んでいる。

成育医療において取り組んできたアレルギー児サマーキャンプでは、福岡県、市教育委員会や北九州教育委員会、福岡市未来局の後援のもと、福岡県全域の小学校にポスターを配布し実施している。また、食物アレルギー児の所持するアドレナリン自己注射（エピペン®；当院年間700本処方）については保育園、小学校、中学校で所持する食物アレルギー児が増加しており、学校、園そして留守家庭子ども会に食物アレルギー講習会として講演を年間20件行っている。

今後も「情報提供」「人材育成」「研究」「学校等におけるアレルギー疾患対応への助言、支援」について、福岡県及び県内市区町村のアレルギー疾患担当部署、教育委員会等と連携を取り、広報活動、研修会の実施、地域住民に対する啓発活動、学校等におけるアレルギー疾患に関する諸問題への対応を行う。

地域住民の方々への情報提供を行うための、県内保健所とのネットワーク構築を図る。

その目的としては以下の通りである。

- 保健所での健診などを通じて、地域格差なく、居住者がアレルギー疾患に対する必要な情報を得ることができ、また、不安や疑問について質問、解決できるような環境を作る。
- 保健師が居住者に適切な受診のタイミングを伝えられるようにアルゴリズムの作成を行う。

その方法としては以下の通りである。

- アレルギー疾患に関する情報提供のためにスライドや動画を作成する。
(現在、食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の2グループに分けてPAEと医師で活動。6月中に概要を作成し、7月までに完成。8月に編集。9月に配信予定。)
- 当センターと各保健所の保健師とのネットワーク（メール配信など）を作り、健診などでの一般の方々からの質問を受け、当センターから回答する。
(昨年度末にアレルギー相談の希望があった保健所を中心に担当者と電話連絡を行い、今後の活動案について提案。)
- 県内全域の保健師に小児のアレルギー疾患 保健指導の手引きなどの資料を紹介し、合同でオンラインカンファレンスを開く機会を設け、スキルアップを図る。
(https://allergyportal.jp/wp/wp-content/themes/allergyportal/assets/pdf/tebiki-1_1.pdf)
- 当センターのHPの情報提供の充実を図り、一般の方々も直接センターに質問できる電話相談があることを周知する。(リーフレット等作成、配布。)

4. 事業内容について

(1) アレルギー疾患患者や家族等に対する電話、FAX 及びメールなどによる相談対応

1) 福岡県アレルギー相談窓口（新規）

① 目的

アレルギー疾患患者や家族等が当院に受診する際にはアレルギー専門医に質問を行い、また生活上の疑問点を小児アレルギーエドゥケーターである看護師、栄養士、薬剤師に相談することができる。しかし遠方に居住しており、相談できるアレルギー専門医がない場合、電話などによる相談を行える窓口があることが望ましい。また、患者や家族が健全な社会生活を送るためには患者および家族を取り巻く支援者が確かな知識と生活上の実践方法を知り協力することが必要である。そこで、アレルギー疾患に関する医学的疑問、生活上の質問を行い、確かな知識と生活上の実践方法を得てもらうため、アレルギー相談窓口を開設する。

② 対象者

- アレルギー疾患患者とその家族
- 保育園、幼稚園、学校教諭や放課後留守家庭教員、スポーツ教室、塾講師、子育て支援課職員などの行政関係者
- 職場の関係者、宿泊先の調理師、デイサービス職員、スポーツクラブ職員
- アレルギーを専門としない医師、看護師、保健師などの医療関係者

③ 方法

- 電話相談：毎週水曜日 10 時から 12 時、毎週木曜日 13 時から 15 時まで（ホームページに掲載）アレルギーセンター職員が初期対応
 - ➔ アレルギーセンター職員が聴取した内容を小児アレルギーエドゥケーターがチェックし、アレルギー専門医や小児アレルギーエドゥケーターにて回答者を決定、1 週間以内に電話で回答する。
- FAX、メール相談：相談用紙をホームページに掲載、ダウンロードし、24 時間 365 日受信
 - ➔ アレルギー専門医や小児アレルギーエドゥケーターがチェックし、回答者を決定、1 週間以内に電話で回答する。

④ 情報の利用

- 相談者には匿名で内容をまとめて掲載することを承諾してもらい、質問・回答内容を記録・整理して、ホームページに公開し、県民の共有財産とする。

⑤ 福岡県アレルギー相談窓口を福岡病院アレルギーセンターに置く。

⑥ 相談内容および回答はアレルギーセンター会議で検討及び報告する。

2) ホームページ・フェイスブックの運営（更新）

令和元年度に、当院のホームページの中に、「アレルギーセンター」のサイトを作成し、専門的な知見に基づいた情報を提供。令和 2 年度においては、動画なども盛り込み、更に充実したホームページへ更新予定である。

また、フェイスブックも既に立ち上げており、イベント情報などを速やかにアップしている。

アレルギー疾患についての説明及び治療手技等を動画配信する。

3) 学校教諭からのアレルギー相談受付

学校や園へ食物アレルギー講習会を行った際、相談用紙を配布、後日 FAX してもらい個別に相談を行う。年間数件の利用がある。

(2) 地域の医師等に対するアレルギー疾患研修会の実施

令和元年度は、医療従事者等の研修会として、福岡市内において、下記の3回を実施したところであるが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染を考慮して、eラーニングでのセミナーを計画している。これにより、近隣の市町村のみならず、福岡県全域のアレルギー疾患医療に携わる医療従事者の知識及び技能等の向上に資することが可能となり、また、アレルギー疾患医療に関する情報を広く行き渡らせることが可能となる。併せて、学術単位の申請・取得確認を検討している。

<医療従事者等の研修会（令和元年度）>

第1回福岡県アレルギー講習会（電気ビル） 令和元年9月28日（土）14:00～17:00

司会：西間三馨 名誉院長

- 総論
- 小児の食物アレルギー 講師：福岡病院小児科医師（30分）
- 成人の食物アレルギー 講師：福岡病院小児科医師（30分）
- 食物アレルギーの栄養指導の実際 講師：福岡病院管理栄養士（30分）
- アドレナリン自己注射薬（エピペン®）使用時の留意点
講師：福岡病院小児アレルギーエドゥケーター（30分）

※ 参加者 235名

（医師36名、薬剤師61名、栄養士69名、保健師8名、助産師2名、看護師55名、その他4名）

第2回福岡県アレルギー講習会（電気ビル） 令和元年11月30日（土）14:00～17:00

司会：西間三馨 名誉院長

- 花粉症と食物アレルギー 講師：福岡病院アレルギー科医師（30分）
- アレルギー性結膜炎 講師：福岡大学眼科講師（30分）
- アトピー性皮膚炎 講師：福岡病院アレルギー科医師（30分）
- スキンケア指導 講師：福岡病院小児アレルギーエドゥケーター（30分）

※ 参加者 170名

（医師33名、薬剤師52名、栄養士25名、保健師8名、助産師3名、看護師46名、その他3名）

第3回福岡県アレルギー講習会（電気ビル） 令和2年2月9日（日）14:00～17:00

司会：西間三馨 名誉院長

- 花粉症・食物アレルギー 講師：福岡病院アレルギー科医師（30分）
- アレルギー性鼻炎 講師：福岡病院耳鼻咽喉科医師（30分）
- 気管支喘息 講師：福岡病院アレルギー科医師（30分）
- 吸入指導 講師：福岡病院薬剤師（30分）

※ 参加者 151名

（医師50名、薬剤師52名、栄養士8名、保健師2名、助産師1名、看護師33名、その他5名）

従来、呼吸器アレルギー検討会、小児科南地区研究会、西日本小児アレルギー研究会など地域で催し、地域の病院、開業医等とのアレルギー知見の共有、および連携を重視している。

(3) アレルギー疾患に関する情報提供

例年、以下のとおり実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染を考慮し、例年とは異なる方法で計画中有る。

1) ホームページ・フェイスブックの運営（更新）

これまでも、病院のホームページの中で専門的な知見に基づいた情報を提供してきたが、令和元年度に福岡県よりアレルギー疾患医療拠点病院として指定され、同時に、院内にアレルギーセンターを設置したことにより、病院のホームページの中に「アレルギーセンター」の専用サイトを作成し、アレルギー疾患に関する情報を集約したところである。令和2年度においては、動画なども盛り込み、更に充実したホームページへ更新予定である。

また、フェイスブックも既に立ち上げており、イベント情報などを速やかにアップしている。

2) 市民公開講座

地域活動として10年以上前から1ヶ月に1回、福岡病院内で患者とその家族を対象に、アレルギー疾患の種類、頻度、特徴、治療、日常生活における注意点などを主な内容とした講習会を定期に開催しており、1年に1回は病院外で市民公開講座を開催しているが、今年度は、WEBでの公開講座を検討中である。

3) 食物アレルギー教室

学校での誤食による死亡例によって注目され対策が急がれている食物アレルギーに対しては、管理栄養士を多く輩出している中村学園大学と協力して30年以上前から食物アレルギー教室を開始し、幼児とその養育者が毎回10～20人程度参加、現在に至っている。栄養士が実際のアレルギー除去食献立を説明、試食するという実際の食生活に役立つものである。

4) アレルギー児サマーキャンプ

毎年開催しているアレルギー疾患児対象のサマーキャンプは、49回を数え、福岡県の協力の下、県下の全公立小学校に案内を配布し、喘息、アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなどをもつ小学生30人の参加を得ている。疾患のスクリーニングや治療の確認のみならず、日常生活でのアレルギー対策の確認・指導も実施している。さらに、将来医療や教育者を目指している参加ボランティアの教育の場としても役立っている。但し、今年度は新型コロナウイルス感染の影響で開催が困難となる可能性があるが、代替案として、十分な感染対策をとったうえで、アレルギー児に対する集中プログラムを計画している。

5) 水泳教室

喘息児を対象に、病院外のプールを借用して毎週1回約40人の幼児から中学生までの会員を擁し、開催している。発作が起きない強度の有酸素運動は心肺機能を高め、運動誘発喘息を減らし、喘息の症状を軽減させ、自信をつけるなどの効果が期待される。

6) 大気汚染・黄砂影響調査

近年、越境汚染などで問題が注目されているPM2.5や黄砂など、大気環境とアレルギー疾患との関連に関しても早くから環境庁（省）の委託業務を含めて研究しその成果を発表してきた。

7) 花粉調査・花粉情報発信

この情報活動は花粉症対策として1988年（昭和63年）から開始され、毎年2月1日から4月15日までの期間、九州各県医師会、九州各県医師会関連施設の協力のもと、飛散花粉量の測定と花粉症患者受診状況についての情報公開を行っている。各協力施設間で情報共有、情報のフィードバックを行い、2020年で福岡市は33年目、福岡県は32年目、九州全体では31年目となった。マスコミを通じて福岡県、九州全域に情報を公表し、花粉症の予防、治療、対策についての啓蒙を促している（別紙参照）。

8) 成人アレルギー疾患アンケート実施

国立病院機構九州グループ検査技師を対象に、アンケートを実施する。

(4) アレルギー疾患に係る診断等支援

1) 気管支喘息診療

喘息の管理上の問題である、運動誘発喘息や、喘息の病態生理において重要な気道過敏性にも早くから着目し、運動負荷試験や気道過敏性試験年間 200 件以上を行い現在に至っている。近隣の医療機関からの重症難治性喘息の紹介も多く、生物学的製剤など新規治療薬の使用経験も県内随一である。

2) アレルギーエドゥケーター施設研修

日本小児難治喘息アレルギー疾患学会事務局があった 2009 年、アレルギーに詳しい医療スタッフ（看護師、薬剤師、管理栄養士）の育成を制度化し、アレルギーエドゥケーターとして全国展開している。平成 28 年度現在、9 期で 357 名が全国で活動している。院内での患者指導やスタッフ勉強会のみならず、福岡県内でも食物アレルギー児の死亡事故を切っ掛けに注目を集めているエピペンの使用方法の講習会などでも講師として活躍しており、その需要は年々増加している。

福岡病院には、現在、看護師、栄養士の小児アレルギーエドゥケーターが 6 名在籍している。

3) 病診連携体制

近隣の医療施設から喘息発作や、食物、薬物によるアナフィラキシーで救急搬送された患者の急性期治療はもちろん、その後の原因精査のための紹介受診を受け付けており、二次受診科としての機能が確立している。

また、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー疾患全般の難治症例を中心に、近隣の医療機関からの紹介も多く、喘息に対する検査教育入院年間約 20 件、アトピー性皮膚炎に対する外用療法教育入院年間約 30 件を行うなど病診連携体制は十分に機能している。特に食物アレルギー小児に対する食物負荷試験は年間 1500 件を超えている。

食物アレルギー教室、アレルギー児サマーキャンプ、喘息児水泳教室参加者は近医クリニックに通院し、定期的に当院で定期健診、教育、適切な診断を行い連携している。

(5) 小児アレルギーエドゥケーター（PAE）の教育および活動の後援

日本小児臨床アレルギー学会で認定を受けた PAE は病棟や地域での勉強会を定期的に行い、全体のスキルアップを図っている。勉強会では小児アレルギーエドゥケーター（PAE）を育てるために到達目標を定め、実践、PAE が講習会を受ける機会や学会活動を行うことを推進できるよう、医師との連携体制や資金援助などを行っている。

地域のクリニック、医療機関の医療関係者（看護師や薬剤師など）が短期間で集中的に研修を受けられるようなシステムを構築するため活動している。

	1年目 (令和元年)	2年目 (令和2年)	3年目 (令和3年)	4年目 (令和4年)	5年目 (令和5年)	PAE 加入
アレルギー疾患に係る診断等支援	気管支喘息診療					○
	アレルギー疾患全般の難治例病診連携体制/アナフィラキシーの原因精査					
	日本小児臨床アレルギー学会認定実習協力病院：アレルギー・エドゥケーター施設研修					
電話等による相談事業	福岡県アレルギー相談センター事業					○
アレルギー疾患の情報提供	ホームページ/ Facebookでの情報収集					○
	市民公開講座	市民公開講座*	市民公開講座	市民公開講座	市民公開講座	
	花粉情報システム					
患者・家族向けのアレルギー教育	食物アレルギー教室	食物アレルギー教室*	食物アレルギー教室	食物アレルギー教室	食物アレルギー教室	○
	サマーキャンプ	サマーキャンプ*	サマーキャンプ	サマーキャンプ	サマーキャンプ	○
	水泳教室	水泳教室*	水泳教室	水泳教室	水泳教室	○
医療者向け研修会	医療者研修会	医療者研修会*	医療者研修会	医療者研修会	医療者研修会	○
		オンライン準備	オンライン開始			○
		e-ラーニング準備		e-ラーニング開始		○
研究 (R2年4月現在)	大気汚染・黄砂研究					○
	成人アレルギー疾患罹患調査/ 膠原病とアレルギー疾患の関連					
	メディカルスタッフ育成支援プログラム評価			保健所での小児アレルギー疾患スクリーニングの充実		
	福岡市幼稚園協会対象FA対応調査					
患者を支援するための地域連携	エビベン講習会	エビベン講習会*	エビベン講習会	エビベン講習会	エビベン講習会	○
	学校教育のなかでのアレルギーに関する教育の充実					○
	保健所での小児アレルギー疾患スクリーニングの充実					○
メディカルスタッフの育成	院内メディカルスタッフの育成					○
	地域メディカルスタッフの育成					○